

プロダンスリーグ D.LEAGUE におけるキャリア支援の実態と課題 に関する研究

学生氏名 寄川 祐

指導教員 教員氏名 前田 和範

研究背景

近年、我が国では定年年齢が上昇し、長期的に働くことが求められている。一方で、スポーツの世界においては、現役選手として生涯を終えることは困難であり、引退後のキャリアについて考える必要がある。国内の既存プロスポーツリーグではセカンドキャリア支援がなされているが、新興スポーツリーグにおいては、制度が十分とは言えないのが現状である。

研究目的

プロダンスリーグ D リーグを対象に、キャリア形成に対する意識とリーグ・チームの支援の実態を明らかにし、キャリア支援の必要性と課題を整理する。また、他競技・他団体が行っている支援の事例と比較し、D リーグに最適な支援の方向性や方法を示すことを目的とする。

研究方法

D リーグに参画しているチームの代表 1 名と選手 2 名 にインタビュー調査を行った。A 氏には、現在のチームでの取り組みやリーグでの取り組みを中心にインタビューを行い、B 氏と C 氏には選手としてのセカンドキャリアの考え方や実態を中心にインタビューを行った。

分析結果

現在、キャリア支援の制度や仕組みは未整備ではあるが、必要性は認識されていることが明らかになった。また、選手は D リーグをキャリアのゴールとは捉えておらず、D リーグでの活動後を見据え、ダンス以外のスキルも身に付けたいと考えていることが分かり、D リーグの位置づけという点において他のプロスポーツリーグとの違いが示唆された。さらに、ダンス以外の業務がキャリアの選択肢の創出につながっていることが明らかになった。

考察・結論

調査によって明らかになったダンス・ダンサーの特性から、他のプロスポーツリーグの支援制度を模倣し、画一的で競技の引退後を見据えた支援を行うよりも、選手の個々の特性や経験に応じた個別特化のキャリア支援が適していると考えられる。また、チーム内でのダンスパフォーマンス以外の業務が意図せずに選手のキャリア形成に寄与していることが明らかになった。これらをリーグやチームが体系的に認識し、チーム内での業務をプログラム化し、制度化すればキャリア支援の充実につながるのではないかと考えられる。